

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

香港の雇用は改善が続く(Asia Weekly (12/13~12/17))

～来訪者数の増加で好調続く。最低賃金設定の影響は不透明～

発表日: 2010年12月20日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/14 (火)	(ニュージーランド) 10月小売売上高 (前月比)	▲2.5%	▲0.8%	+1.6%
	(インド) 11月卸売物価 (前年比)	+7.48%	+7.45%	+8.58%
12/15 (水)	(韓国) 11月失業率 (季調済)	3.2%	3.6%	3.6%
	(フィリピン) 10月失業率	7.1%		6.9%
	10月海外労働者送金額 (前年比)	+9.3%		+10.6%
	(シンガポール) 10月小売売上高 (前年比)	▲2.8%	▲1.0%	+0.3%
	(前月比/季調済)	+0.9%	+2.1%	▲2.4%
12/16 (木)	(インド) 金融政策決定会合 (レポ金利)	6.25%	6.25%	6.25%
	(リバースレポ金利)	5.25%	5.25%	5.25%
	(現金準備率)	6.00%	6.00%	6.00%
	(香港) 11月失業率 (季調済)	4.1%	4.1%	4.2%
12/17 (金)	(シンガポール) 11月非石油輸出 (前年比)	+10.0%	+21.5%	+34.5%
	(前月比/季調済)	▲12.9%	+0.3%	+5.8%

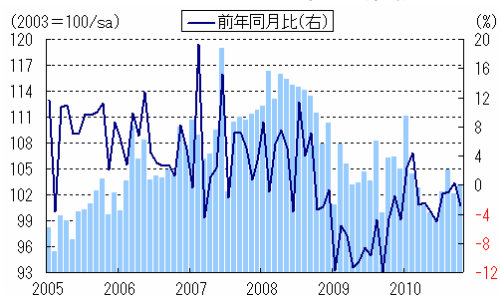
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[シンガポール] ～内需の堅調は続き、貿易黒字は大幅に縮小。先行きの輸出に不透明感は熾る～

15日に発表された10月の小売売上高は、前年同月比▲2.8%と前月(同+0.3%)から減少したが、前月比では+0.9%と前月(同▲2.4%)から増加した。前月に大きく落ち込んだ自動車販売は小幅減少に留まり、来訪者数の増加により消費が押し上げられた。なお、足元ではSGドル高圧力が強まっており、旅行者にとって消費抑制要因となるため、先行きについては楽観視できない。他方、雇用環境は改善していることから、個人消費は下支えされよう。

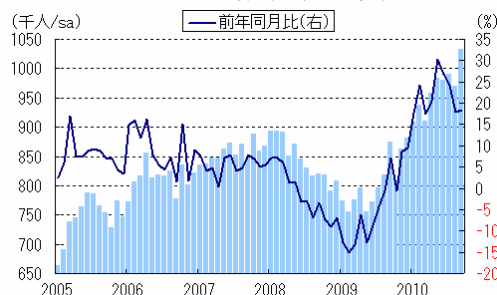
17日に発表された11月の非石油輸出は、前年同月比+10.0%と前月(同+34.5%)から伸びが鈍化した。前月比も▲12.9%と前月(同+5.8%)から減少し、前月までの反動が出た。なお、石油輸出は前月比+6.4%と前月(同+11.3%)に続いて拡大した。結果、総輸出額は非石油輸出の減少が響き、前年同月比+11.7%と前月(同+19.6%)から伸びが鈍化、前月比も▲4.7%と前月(同+3.3%)から減少した。アジア経済の堅調に加え、米国のクリスマス商戦も好調だが、依然として世界経済は先行き不透明であり、今後調整圧力が高まる可能性は小さくないと思われる。他方、輸入額は前年同月比+14.2%と前月(同+9.9%)から伸びが拡大し、前月比も+1.0%と前月(同▲0.7%)から増加した。結果、貿易収支は+40.02億SGドルの黒字となり、前月(+70.66億SGドル)から黒字幅が縮小した。7-9月期の実質GDP成長率は外需の影響で前期比年率▲18.7%と前期(同+27.3%)から大幅マイナスとなったが、内需は底堅く推移している。

図1 SG 小売売上の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 SG 来訪者数の推移



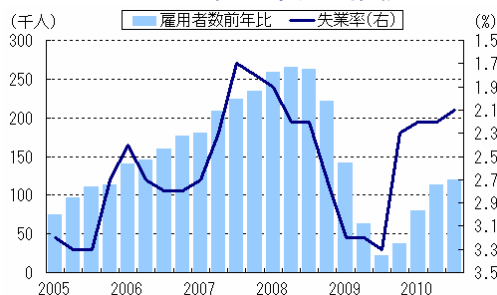
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 SG 為替相場の推移(対米ドル)



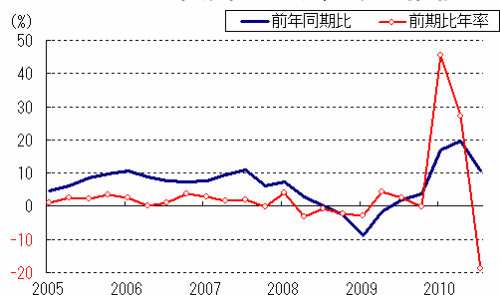
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 SG 雇用環境の推移



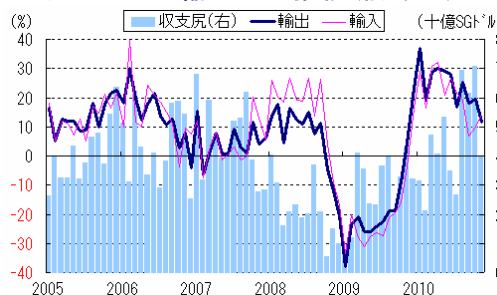
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 SG 実質 GDP 成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 輸出入の推移(前年比)

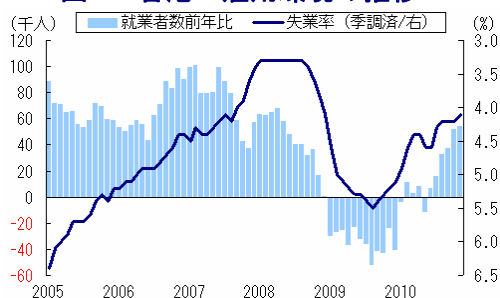


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】 ～来訪者増加による小売売上の堅調で雇用環境は改善。来年の最低賃金制度導入に不透明さも～

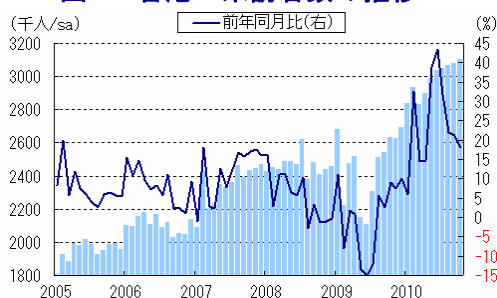
16日に発表された11月の失業率(季調済)は4.1%と前月(4.2%)から0.1p改善した。雇用者数も前年同月比+5.39万人と前月(同+5.17万人)から拡大し、雇用環境の改善が確認された。7-9月期の実質GDP成長率は、海外経済の減速を受け、前期比年率+2.9%と前期(同+5.7%)から伸びが鈍化した。来訪者数の増加で小売売上は大きく拡大し、景況感は改善している。中国経済は今後も堅調が続くと見込まれ、雇用環境は緩やかな改善が期待される。他方、香港行政府は来年5月を目途に、雇用条例による法定最低賃金制度を導入する方針であり、これは労働集約型産業を中心に悪影響を及ぼすことも懸念される。

図7 香港 雇用環境の推移



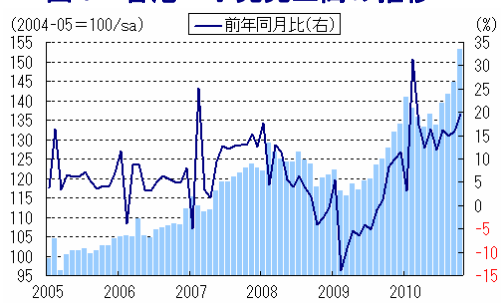
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 香港 来訪者数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 香港 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上